

## 歴史とであう街 宝永

— 安全 安心 融和 —

宝永公民館

### 1 地区の概要

宝永地区は福井市街地のほぼ中心に位置し、東はJR高架線、西はフェニックス通り、南はさくら通り、北はえちぜん鉄道が走り、中央には松本通りが大きく東西に通じている。地区内には、数多くの寺社、県国際交流会館、養浩館庭園、市立郷土歴史博物館など、歴史・教育・文化施設が充実している。

江戸時代から城下町の中核を占め、古くから商業・住宅地として発展してきた。また、松平家の別邸である養浩館庭園(平成5年に復元)を中心に、歴史的史跡が多く、多数の偉人を輩出してきた地区でもある。

城下町時代の御旗(おはた)町、御駕(おかご)町、鷹匠(たかじょう)町、与力(よりき)町、鍛冶(かじ)町など由緒ある町名が今も自治会名として残されており、地区の無形文化財として価値ある名称を続けている。

しかし、近年、少子高齢化と地域のドーナツ化現象が進み、人口・世帯数が減少し続け、令和元年5月1日現在、人口5,025人、世帯数2,091戸となっている。

公民館は、平成20年4月に、現在地(旧勤労婦人センターを大規模改修)に移転した。

### 2 地域の歴史を学び、次世代に伝えよう！

#### (1)「宝永れきしカルタ」作り

平成22年、郷土学習支援事業として「宝永れきしカルタ」作成委員会を立ち上げ、約2年をかけて完成させた。養浩館庭園をはじめ、地区に残る数多くの史跡や神社仏閣、歴史的偉人などをカルタにして、子どもからお年寄りまで楽しく地域の歴史を学び、後世に伝えていくことを目的としている。地区民や小学校高学年児童から募集した661の読み句を委員会で選考し、絵柄は地区民の方に依頼した。



完成したカルタは、地区文化祭やお泉水フェスタなどの地区の大きな行事でカルタ大会を実施したり、公民館の講座で教材として使用したりなど幅広く活用し、地区内に広く浸透している。

#### (2)「宝永れきしカルタ」ウォーク

宝永小学校では、「宝永れきしカルタ」を各教室に設置し、地域学習の教材として活用している。また、平成26年より、3年生の児童が公民館との共催で年2回、「宝永れきしカルタ」ウォークを行っている。

3年生児童と教員、PTA、公民館主事などが参加し、2グループに分かれてカルタに詠まれている箇所を巡り、社会教育会や運審委員の方の指導で楽しく郷土の歴史を学んでいる。



### 3 特色ある公民館事業

#### (1)伝統の「地区卓球大会」

「冬期における地区民の体力増進と、互いの親睦を図り、健全な心身の育成をめざす」ことを目的に、毎年2月に開催している。公民館と市民憲章宝永支部が主催し、体育協会と子ども会育成会が主管となり、各種団体の共催で行われるこの大会は、平成30年度で55回目を数える。地区では歴史ある伝統の大会として親しまれ、毎年、小学生から高齢者までが各部門に分かれて熱戦を繰り広げ、交流を深めている。



## (2) 公民館に門松を飾ろう！

公民館講座のひとつである泉水(いずみ)学級の事業で、毎年12月の月上旬に実施している。“和に親しむ”をテーマに、門松作りのノウハウを学び、正月に公民館や自宅の玄関に手作りの門松を飾っている。

平成25年に、一乗公民館が成人学級として行っていた門松作りを学級生数名が見学して、必要な材料や作り方を学んできたことから始まり、現在では泉水学級のメンバーや地区民たち約20名が楽しく活動している。



## 4 まちづくり事業の2大イベント

### (1) 養浩館庭園のライトアップ事業

平成元年から続いているこの事業は、地区の歴史的シンボルである養浩館とその庭園を舞台に開催され、毎年3月に地区民一丸となって取り組んでいる。

ライトアップ照明は、まちづくり委員会が中心となり、約50基のライトが園内に設置される。そして、幼稚園児・小学生・進明中美術部・公民館自主グループ会員などが描いた手づくりのあんどん約300個も並べられ、廃油で作ったろうそくで照らされる。

池に映し出される庭園と沿道のあんどんが幻想的な情景を醸し出し、二日間の開催中には毎年地区内外から約2,000人が来園する。

また、地区団体の人々たちによる、お茶席・甘酒・梅こぶ茶などの心温まるおもてなしも行われ、来園者を喜ばせている。



## (2) お泉水フェスタ

毎年8月上旬に、養浩館庭園に隣接するお泉水公園を会場に、「宝永音頭」「どんと宝永」といった宝永の民踊を中心とした民踊大会と同時開催している。

バンド演奏などのステージイベント、「宝永れきしカルタ」大会、お楽しみ抽選会などがあり、自治会連合会による飲食コーナーやお遊びコーナーの模擬店が出店する。また、高齢者向けに「フェスタお楽しみ券」を配布し、敬老事業の一端も担っている。

子どもから高齢者まで、地区民が楽しめる夏祭りとして定着し、令和元年で22回目を数える。



## 5 終わりに

中心市街地の問題である人口減少・高齢化が進んだ宝永地区では、今後の課題として、高齢者の生きがいと安らぎ、若者の増加とUターンが挙げられる。今後は、40代～60代の中心世代の地域愛による『和・輪・話』を大切にしていきたい。

現在、宝永公民館では各種団体連絡協議会を作り、各団体の情報交換・連携・調整等により、地区団体の一体化を図っている。

また、まちづくりでは、地区民の宝である養浩館庭園を中心に2大イベントを開催して、幼児から高齢者までが繋がる地区を目指している。それらを継続するためにも、公民館としてさらなる人づくりを考えていきたい。

公民館を拠点とし、様々な事業を通して地区民が楽しく歴史を学び、それを次世代に伝えていこうという熱い思いが伝わってきました。

養浩館庭園を歴史的シンボルとして位置づけ、今後も地区の人々が一丸となって歴史と伝統ある宝永地区を盛り上げていっていただきたいと思います。